

ホヤ原料のサプリ、来年から輸出 三生医薬

2017/12/23 0:00 | 日本経済新聞 電子版

健康食品大手の三生医薬（静岡県富士市）は健康食品の輸出を強化する。東北で養殖した水産物のホヤから抽出した、記憶力の向上などに効果があるとされる「プラズマローゲン」を2018年から海外での販売に乗り出す。他の商材も東南アジアなどへの輸出を拡大し、健康食品の海外売上高を3年後に現在の約2倍の10億円に引き上げる。

プラズマローゲンは抗酸化作用を持った物質で、脳神経細胞などに含まれる。同物質を摂取することで軽度の認知症などに効果があるとみられている。すでに複数の健康食品メーカーが扱い、鶏肉やホタテなどから抽出している。三生医薬はホヤから抽出する技術の開発を進めてきた。

同社はホヤから抽出した物質の機能を実証する「コグニトラックス」と呼ばれる試験を10月末まで実施。速報ベースで記憶力の向上に一定の効果が得られたという。結果は論文にまとめ、学術誌への投稿を予定する。こうした成果を受け、台湾やシンガポールなどへの輸出に乗り出す。

19年をめどに米食品医薬品局（FDA）の認証を得て、米国への輸出も目指す。ホヤは東日本大震災以降、風評被害で海外への輸出が急減。東北産を使うことで復興支援と安定調達を狙う。

併せて、関節症の改善などに効果があるとされる、オキアミから抽出したクリルオイルも拡販する。同物質は米国でサプリメントとしての認証を得ており、品質の良い日本製であることを訴えていく。

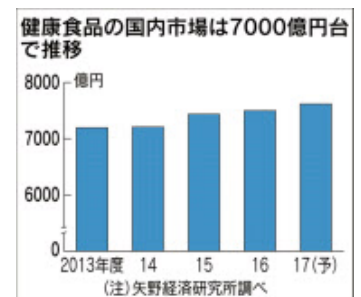
矢野経済研究所（東京・中野）の推計で、健康食品の国内市場は16年度で7500億円と、近年は7000億円台で推移している。三生医薬は海外の市場を開拓して成長を確保する。[AFC-HDアムスライフサイエンス](#)など静岡県内の健康食品各社も海外事業拡大に動いている。

現在の三生医薬の海外事業は清涼食品向けなどの香料カプセル製造が主力で、20億円台の売り上げがある。一方、健康食品は5億円程度にとどまっており、新たな商材の投入で海外売上高を伸ばすことを目指す。

同社は14年に米大手ファンド、カーライル・グループの傘下に入った。サプリメントなどの成分を詰めるためのカプセル製造に強みを持っているが、近年は「中身」にあたる原料開発に力を入れている。



東北産のホヤを使い、復興支援と安定調達をねらう



許諾番号30062968 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。